

ニジェール支所便り

10月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni_oso_rep@jica.go.jp

中川企画調査員の赴任挨拶

青木さんの後任として着任しました中川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。生まれたのは北海道の北の果て、そして JICA との関わりで流れ流れて西アフリカとお付き合いもすっかり長くなりました。また、縁あって地の果てモロッコとの関わりも長くなりました。マグリブ(日の沈む国)に興味ある方は、お話し相手になりますよ。先々は、ニジェール川のごとく、この地を肥やせるようなそんな活動を当地でしたいなーとも考えております。でも洪水で流されないように、しっかりと浮き輪と皆さんとの命綱をたよりに、楽しく生活したいと思います。街で会ったら声をかけて下さい。今回は、家内と娘とでニジェールに来ました。(これまたよろしくお願いいたします)(中川企画調査員)

プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

VRACS プロジェクトの農業普及担当として、主としてファーマーフィールドスクール(FFS)の運営指導を担当してきました小川慎司です。今回で5回目のニジェール渡航となり、最後の派遣になります。普及担当としては現場で直接受けた印象というのが非常に重要ですが、つい先日ケニアの第3国専門家の Masai 氏がタウワ州とマラディ州のサイトを視察したときの所感を聞く機会がありました。彼は VRACS の FFS グループが政府やドナーの援助のエントリーポイントとして活用されだしてきていること、農民の収穫が向上し、生計が向上



して、口座に預金が増えた事例、農民が今までより農地を拡大して経営いただいた事例、農民ファシリテーター養成研修を受けたが、他の援助機関の契約業務を実施している事例、現地で FFS に参加したいという住民の要望が非常に多くなってきていること、今回の農民ファシリテーター養成研修参加農民の意識の高さ等、今回の現場で見た FFS のさまざまなインパクトについて興奮気味に語ってくれました。3年間の短いプロジェク

ト期間で、かつ治安上の問題から現地での活動に制限があったために日本人が直接指導できず、遠隔による品質管理を通じてどの程度のインパクトが出てくるのか半信半疑でやってきましたが、ここニジェルでも FFS というエンジンはうまく回ってくれたようで、インパクト発現のニュースを派遣終了間際に聞くことができ、ひとまずは満足しています。特に農民のエンパワーメントにかかわるインパクトの発現は技術移転や技術展示に力点を置いた、ニジェルの既存の FFS プログラムではあまり見られなかった傾向だと思われ、VRACS 方式の FFS の普及上の優位性を示しているものと思われ。一方で、FFS 実施システムそのものの改善、それぞれの FFS セッションの品質向上、普及局の制度としての導入と全国レベルでの実施は依然として大きな課題で、Masai 氏が言うようにまだ「Immature」な状況です。あと半年足らずのプロジェクトでどこまでできるかは、大きなチャレンジになってくると思います。最後に、それまでまったく西アフリカでの業務経験もなく、仏語もまったくできない私を農業普及担当に取り上げて頂き、サポートして頂いた、関係者の皆さまにこの場を借りてお礼を申し上げます。派遣時期が比較的穏やかな季節だったせいもあるのかもしれませんが、もともと寒がり、高地不適應の自分には、なにかニジェルは体質的に非常にあっていた気がします。また何か機会がありましたらよろしく願いいたします。(小川専門家)

■■みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■

【州教育フォーラムモデル執行委員会開催】

8月31日、タウア州教育フォーラムの執行委員会がタウア州で開かれました(フォーラムとは、学校運営委員会/学校運営委員会連合による、地域の教育改善に取り組む活動で、今フェーズから学校運営委員会(コミュニティ)と地方行政とが協働してより持続性のある活動を目指すものです。フォーラムでは毎回テーマを掲げ、各学校運営委員会/連合はそのテーマに沿った活動を進め、行政側はそれを支援します)。当会議の目的は、6月中旬に「女子教育(就学促進、男女格差是正)」をテーマに実施されたタウア州教育フォーラム後の状況を把握し、今後の戦略を練ることです。報告によると、8月下旬時点での状況は下記の通りです。

<各アクターによる報告会実施状況>

連合総会でのCGDES(学校運営委員会)代表への報告:44連合中44連合実施(100%)

視学官から指導主事への報告:23視学官事務所中23視学官事務所実施(100%)

市長から市議会議員への報告:44コミューン中43コミューン(97.7%)

<新入生事前登録および男女比率状況>

・新入生事前登録者(8月下旬時点):全体76,959名(男子41,048名、女子35,911名)

・男女比率 0.87

また、CACOCOM(市長や学校運営委員会連合代表、県CGDES監督官等から成るコミューン連絡協議会の通称。フォーラムをより持続性のある活動につなげるために構成された、コミューンと学校運営委員会及び連合連携の新しい枠組み)の設置状況についても、44コミューン中、35コミューンで既に設置され、30コミューンにて認可が下り、17コミューンにて第1回目の会議が開催済みとのことでした。

新入学児童の男女格差改善に関しては、目標だった0.83を上回っていますが、事前登録だけでなく、実際の「入学登録」において結果を出すことが重要であり、今後も活動支援やモニタリングを続けることが重要です。



←州教育フォーラム執行委員
会の様子



エクセル講習会→

【エクセル講習会、中間レビュー評価の提言実行にかかる会議】

7月に開始した、カウンターパートであるCGDES調整部を対象にしたエクセル講習会が再開され、9月5日(金)と10日(水)に実施されました。3回目となる5日の研修には8人全員が(調整部長は短時間のみの参加)、4回目となる10日の研修には6人が参加し、データの収集・分析に必要なエクセルの使い方について学びました。前回の実施から1か月以上経過していたため、忘れてしまっていた部分もありましたが、4回目の研修では、一人ひとりがCGDES数や、学校活動計画/総括回収数、活動数等のデータから、エクセルを使って回収率や平均活動数等を出してリストを作る、という実習に取り組みました。中にはエクセルの使い方よりも計算式が分からないという調整部員もあり、基礎教育の大切さを改めて感じさせられた場面もありましたが、過半数を超える参加者が無事リストを作ることができました。

また、先月実施されたプロジェクト中間レビュー調査による提言事項にかかる会議が調整部にて2回に渡って開催され、提言されたことを実行するためにどのような活動を、いつ誰が行うかといったことについて話し合われました。2016年5月のプロジェクト終了までに、調整部が主体となって活動を進められるよう、プロジェクトと調整部がともに取り組んでいく必要があります。(羽田野専門家)